

## 〔4〕 まちと人びとのくらしを守る

大阪港では、地震や津波、高潮などの大きな自然の災害が起きたときに、市民のくらしや産業を守るために、さまざまな活動が続けています。

- 1 大阪港におし寄せてくる地震による津波や、台風による高潮から大阪市を守るために、海ぞいや川ぞいに防潮堤をつくっています。その長さはおよそ143.6kmあり、全部で393基の防潮扉と21基の水門を設けています。
- 2 防潮扉と水門を24時間見守り、津波や高潮がおそってくるまでには閉じて、海水が流れこまないようにしています。
- 3 災害が起きたときにうまく活動できるように、日ごろから訓練を重ねています。また、市民や子どもたちに、災害が起きたときの安全について、よく知ってもらうための取り組みも進めています。

まゆかさんたちは、「市民に親しまれる港づくり」をめざして、大阪港でいろいろな取り組みが進められていることがわかりました。

みんなはこれまでに、大阪港についていろいろなことを勉強してきました。

わかったことや考えたこと、もっと調べたいことなどをまとめて発表することにしました。



あじかわ  
安治川の水門

日本で最も早くできたアーチ型



防潮扉と水門を見守る大阪市の  
港湾防災センターの人たち



防災訓練のようす



防潮扉と水門のあるところ